



ほうなん

令和6年度 7月号

令和6年6月28日
杉並区立方南小学校
03(3322)7661

子供たちからの発信「だれでも笑顔で仲がいい方南小」

副校長 清原 正之

本校の教育目標達成のための基本方針は、『感動と優しさに満ちあふれた学校』です。「感動」「優しさ」を支える要素の一つとして、「自尊感情」や「自己肯定感」が挙げられます。自分に自信をもつことができている、自分は人の役に立っている、そんな状態だからこそ、他者に対して優しくなれたり、もっと頑張ってみようという気持ちが湧いてきたりするのだと思います。

令和5年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査では、「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して、小学6年生の約17%、中学3年生の20%が、“あまりあてはまらない”“あてはまらない”といった否定的な回答をしています。10年前の調査結果と比べると、否定的な回答をする児童・生徒の割合は減っていますが、一人でも多くの児童・生徒の自己肯定感を高めたいものです。

自己肯定感は、どのような時に高まるのでしょうか。様々な場面が考えられますが、子供たちにとっては、「自分が頑張ったことを価値付けてもらえたり、ちょっとした成長でも見つけてもらえたりした時」が、いちばん自己肯定感が高まるのではないかと思います。自分のことを認めてもらえると、大人でも嬉しいものです。

先日、代表委員会がよりよい方南小学校を目指すためのスローガンを考えました。『だれでも笑顔で仲がいい方南小』。みんなで笑顔あふれる学校生活にしていこうとする素敵なスローガンです。このスローガンを具現化するための取組の一環として、6月下旬に「スマイルキャンペーン」と題して、以下のような活動をしました。

6月25日(火) スマイルタイム	……	とにかく30秒間にここにする。
6月26日(水) ハイタッチタイム	……	2分間挨拶をしながらハイタッチをする。
6月27日(木) ホメホメタイム	……	2分間ペアの友達のよいところを伝える。
6月28日(金) 開脚じゃんけんタイム	……	3分間ペアでじゃんけんをして、負けたら両足を少しずつ開いていく。開けなくなったら負け。

ハイタッチタイムでは、形式的にハイタッチをするのではなく、言葉のかけ方を工夫しながら友達との関わりを楽しんでいました。また、ホメホメタイムでは、具体的に友達の長所や頑張りを伝える姿が見られました。制限時間の2分間を過ぎても、友達のよいところを伝え続けるクラスがたくさんありました。



7月。子供たちは、1学期の生活と学習の振り返りをする時期です。私たち教職員は、1学期の間にどれだけ子供たちの自己肯定感を高めることができたのか。子供たちと共に1学期を振り返り、2学期以降の教育活動につなげていきます。